

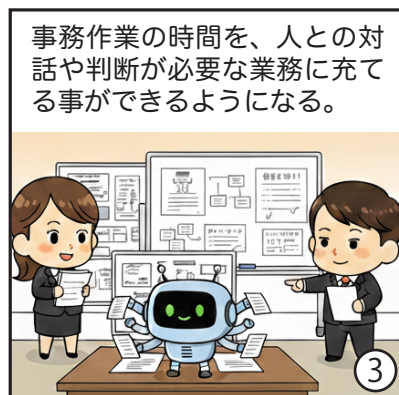
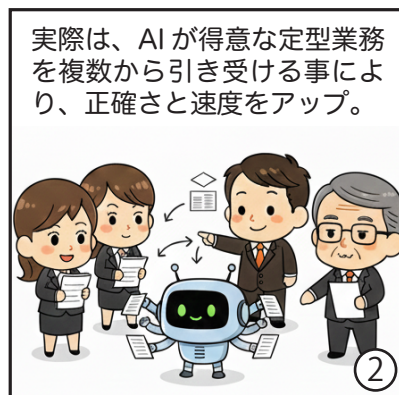
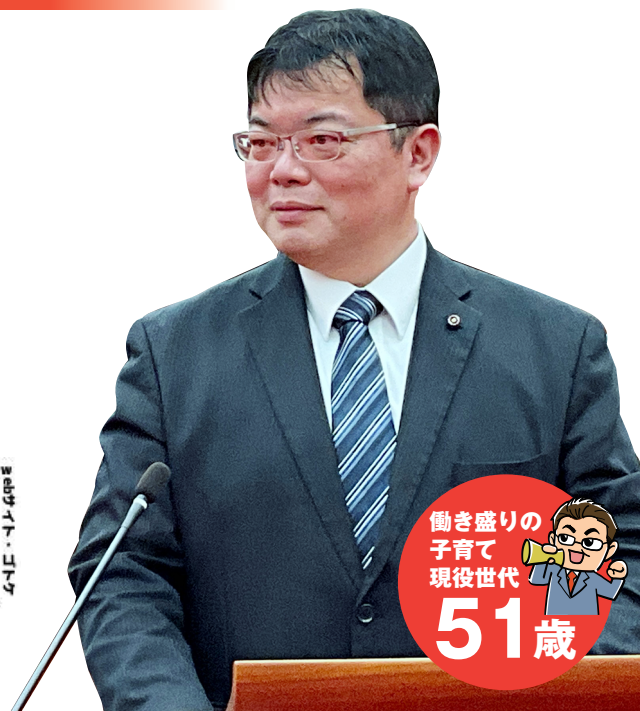
ごとう健一郎の 活動レポート

第19号

後援会日より

「市議会議員って、普段どんな活動をしているのか分かりにくい」。そう感じる方も多いのではないのでしょうか。私は、市政を少しでも身近に感じていただきたいとの思いから、この「活動レポート」を定期的に発行しています。今回の一般質問は「今後も寒河江市が持続可能な自治体であり続けるため」という視点を強く意識して行いました。

公式サイト <https://gotokens.jp> Mail info@gotokens.jp FAX.0237-86-1203
f <https://facebook.com/gotoukenichiro/> X @goto_sagae @gotoken_sagae



【令和7年12月定例会一般質問 その1】

市役所業務でのAI活用について

近年、民間企業との採用競争の激化や若手職員の離職、人口減少などにより、多くの自治体で人材確保が難しい状況となっている。

この傾向はさらに進むことも予想されるので、市役所の日常業務においてAIを戦略的に活用することは、極めて重要である。また、生成AIを使って旅行プランを作る人が急増しており、ネット検索および生成AI対策として、体系立てた観光情報整備が必要だ。



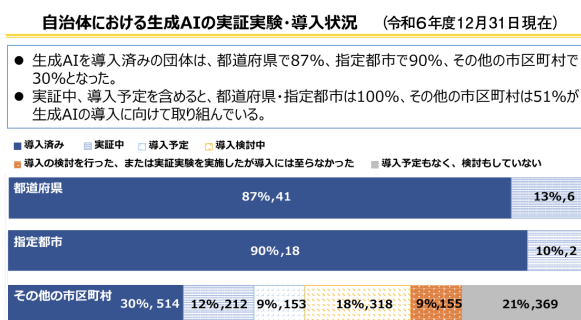
Q 市役所の日常業務における、AI 活用の現状は。

A いわゆる「識別系 AI」といわれる、紙の納付書から文字情報をデジタル化する AI-OCR (税務課) や音声から自動文字起こし及び要約を行う議事録作成システム(全課)を活用しています。

一方、無償の生成 AI については、入力した情報が外部で学習に利用される可能性があることから、生成 AI は挨拶文の作成、文章の校正等、機能を限定し許可制で活用しています。

Q 総務省の自治体生成 AI 導入状況調査によると、導入済～導入予定まで含めた総数は、都道府県および指定都市で 100%、その他市区町村も 51%に達する。

①人手不足・人口減少への対応 ②行政サービスの質と効率の両立 ③国の DX 政策と補助金制度の充実。
上記に加え、行政専用生成 AI も登場しているので、**寒河江市役所でも生成 AI を本格導入してはどうか。**



▲総務省「地方自治体におけるAI・RPAの実証実験・導入状況等調査」より

A 今後、識別系 AI だけでなく、生成 AI をいかに活用するかが重要と考えており、外部から完全に分離した環境下での自治体向け生成 AI サービスを活用してまいりたいと考えています。

まず、本格的に生成 AI サービスを活用するための準備段階として、今年 10 月から 3 社の生成 AI サービスのテストを順次行っています。

来年度予算に必要な経費を計上し、令和 8 年 4 月に改めて利便性や正確性、提供業者のサポート等の確認を行った上で生成 AI サービスを選定し、本格的に活用できるよう進めたいと考えています。

同時に、生成 AI に関する活用ガイドラインを作成し、情報セキュリティや生成内容の正確性確保などを徹底してまいりたいと考えています。

今回掲載の四コママンガのご紹介

今回の活動レポートに掲載した左の4コマ漫画は、イラスト部分を無料の生成AI、GoogleGeminiに描いてもらいました。

裏面に続きます